

技術士に期待する

Expectation for Professional Engineers

人口減を上回る勢いで技術者志望の若者が減少している。科学技術創造立国の旗印のもと、ここ15年ほど技術者の育成強化が国策として取り上げられてきたが、いまだその実効は現れていない。

小中高を経て大学進学が近づくと、誰でも自分の将来像を真剣に描き始める。しかしその中に、技術者像が入り込めないでいる。これを変えない限り、事態は変わらない。医者や弁護士は、人物像が明確である。しかし技術者というと、発明家、創業者、デザイナーから熟練技能者まで、その像は焦点が定まらない。どんな人になりたいのか、若者が探し求めるロールモデル（役割模範）から、技術士を始めとして社会の基盤を支えている本来の技術者が抜け落ちている。

この現実を変えることは、社会の認識を変えることと同じである。根気よく時間をかけて取り組むより改善の途はない。技術者という仕事を、努力が報われる魅力ある職業として社会に定着させるため、私は次の三つのステップを考えている。
第一段階：技術者という名前を、誰でも自称できる単なる普通名詞から、特定の要件を満たす称号（タイトル）に変え、社会に定着させる。

第二段階：称号の段階から名称独占（登録資格）に進むもの、すなわち技術士を増やして、公益を担う中核に据える。

第三段階：技術士が業務独占（ライセンス）の職務を果たす局面を拡大し、プロフェッショナルとしての地位を固める。

技術者のモビリティや相互承認を議論する国際会議の場では、技術に携わるものをエンジニア、テクノロジスト、テクニシャンの三つの職務に分類することが定着している。知識の応用力と構想力を中核能力とするものがエンジニア、熟練技

大橋 秀雄

Ohashi Hideo



学校法人工学院大学理事長 Dr.-Ing., 工学博士

日本技術者教育認定機構（JABEE）会長

1954年 東京大学工学部機械工学科卒業、石川島重工業（株）入社

1959年 東京大学工学部講師、76年 同教授

1992年 東京大学名誉教授、工学院大学教授

1994年 工学院大学学長

2003年 現職

能を中核とするものがテクニシャン、両者の中間がテクノロジストである。エンジニアには、アメリカを始めとする主要な国では認定された学士レベルの技術者教育を修了していることが求められる。これによってエンジニアが、単なる自称でなく、一定の内容を保証する称号に変わってくる。

エンジニアとして国際的に通用するのは日本では誰か？グローバル化の進展につれて、避けて通れない問題となった。1999年に設立された日本技術者教育認定機構（JABEE）は、エンジニア＝技術者という答えを出した。エンジニアの上にPEがいるように、技術者の上に技術士がいる。JABEEは、第一段階を実現する手段として学協会を中心に産学官が協力して立ち上げ、すでに累計5.6万人の修了生を社会に送り出した。修了生は一次試験を免除されて、まさに技術士予備軍である。

第二段階は、単純明快で、技術士の数を増やすことである。技術士は、人工物で溢れる現代社会において安全保証の担い手である。技術士が、企業の中でも正当に評価され処遇されれば、本人だけでなく予備軍にとっても大きな励みとなる。

第三段階は、安心安全な社会を確実にするため、技術士の保証を求める局面を拡大することにある。医師並みといわないまでも、少なくともアメリカのPE並に業務独占の機会を拡大する。この動きを、官の技術士活用事例を先導として産業活動全般に広げるためには、産官の意識的な取り組みが必要である。

国民の健康を守る医療の中心に医師がいるように、豊かさを支える技術の中心に技術士がいる。技術士の皆さんが、自ら若者にロールモデルを示す気持ちになって、生き生きと活躍されることを切に願っている。